



# 人を大切にする新たな安全・安心社会の実現をめざす 滋賀県労連第二六回定期大会

9月1日、彦根市内で滋賀県労連第26回定期大会が開催され従業員組合から小原執行委員長が幹事として、車谷副委員長が代議員として参加しました。

昨年の大会以降、原発、TTP、消費税、高校統廃合の一点共同の前進、一般労組を中心とする組合結成などたまたかの成果を確認するとともに、賃金底上げの最賃や、公契約適正化運動の推進、公務員攻撃への反響、組織の拡大強化に向けた方針を決めました。

厚労省社会保険庁の分限処分(解雇)事件裁

判、中央労働委員会の日電硝子不当労働行為事件、大阪市役所の思想調査と組合事務所立ち退き事件裁判について、それぞれ原告から支援訴えがありました。

討論では、18人が発言しました。「高校統廃合は2年間ストップさせ、いま正念場」(高教組)、「長浜高校の福祉学科を守る運動を」(高教組)、「彦根西高を守る運動を彦根、愛犬で進めている」(全教)、「秋開のたたかいかいについて」(JMIU)、「給食センター」建設などで市と交渉している」(八幡地域労連)、「県議会の賃上げ攻撃をはねかえした。公契約適正化運動などの推進を」(自治労連・県職)、「大津の中学生自殺問題についての取り組み」(全教)、「人員削減が続いている。会社利益より安全の運動を」(国労)、「新市長のもとでヒヤリングが増え多忙になっている」



(自治労連・大津)、「公務員攻撃は国民犠牲となる。人勧無視の賃下げに対して滋賀でも4人が原告となった。訴訟で頑張る」(滋賀国公) 盆前の集中豪雨で大津市内も被害。命と健康を守る運動への参加を」(自治労連)、「湖北でも原発、TTP、高校問題で運動が起きている。自治体キヤラパンを頑張る」(湖北労協)、「原発問題はエネルギー政策の根幹。キンカン行動への参加を」(大会傍聴者)、「あいつ野日米合同演習やめさせる運動を」(高教組)、「福島の子どもたちを滋賀に招く。のびのびサマーを行った。改めて放射能問題を考えさせられた」(全教)、「勤労者通信大学を受講し勉強になった」(一般労組)、「労働環境改善と人員増が必要。県労働委員会の活性化にむけ県労連としても役割発揮を」(医労連)、「ダブルワークでない生活でさなない。要求を軸に産別を超えた組織拡大の取り組みを」の発言でした。全体と

- 新役員
- 議長 杉原秀典 (高教組)
  - 副議長 今村伸治 (新・自治労連)
  - 同 瀧上正昭 (新・全教)
  - 同 宮武眞知子 (医労連)
  - 同 清水秀樹 (国労)
  - 同 松木和雄 (建交労)
  - 同 太田忠男 (JMIU)
- 事務局長 山元大造 (新・福保労)
- ※(新) 以外は継続 (県労連FAXニュースより引用)



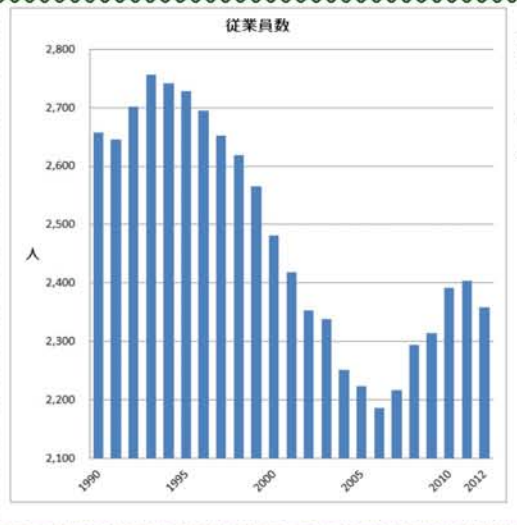
## 2012年 日本母親大会

8月25日から26日の2日間の日程で第58回日本母親大会が新潟市で開催されました。

大会には「女性の願いを出発点に話し合い、連帯しよう」と13,000人がつどい、先輩組合員の植木和美さん・坂下祥子さん・田中紀美子さんの3人が滋賀県からの63人とともに参加されました。

参加された植木さんは「開催地の文化と心に触れることができました」と報告と感想を寄せています。

分科会は特別企画の映画「ふみ子の海」と警女(こぜ)の歴史・警女唄」に出



## 職場の声

### 退職者数の予測が間違っていたのでは?

最近よく聞く話ですが「支店に行員が不足して困っている。母店クラスはもともと減らされているらしい」これ以上減らされると仕事が回れなくなりそうに困っている。「私の店も9月に一人減ったが新人さんを頼りに何とか回っている」

と人員不足の嘆き。原因を「定年などで退職する人の人数を人事部が読み誤っていた」との声も聞こえています。

人事は「読み間違った」で済むのでしょうか、実際に少ない人員で仕事を「大変」だと思います。

グラフは当行の従業員数の推移ですが、93年をピークに減少を続け06年をボトムに増加に転じましたが12年に前年比46名の減少となっています。

## 滋賀県労連第26回定期大会に参加して

3・11東日本大震災による甚大な犠牲と、福島原発事故による被災者の生活・保障をなおざりにしている民主党は、さらに追い討ちをかけるように原発再稼働、TTP参加、消費税増税など、国民の生活・いのちを省みず、アメリカ言いなりの政治を平然と続けています。

発言の中で大阪の民間企業でも思想調査がおこなわれている。抗議すると大阪市長がやっているとからいんだと、経営者が回答している。

私は、そのほか、組合つぶし・教育現場への思想介入など危険な政策を推し進める橋下市長に、選挙の票ほしさに追随する議員が相次ぎ、信念を持たない政治家が横行することに強い懸念を持っています。

また、日本のように首相がコロナ変わる国は世界でも例がなく、交代のたびに前の首相のほうはまだままだと言われるくらい国内情勢は悪化の道を進んでいる。大本から変える流れを作るためにも組合の果たす役割は重要であると改めて感じました。

小原信夫

## 開催地の心に触れた感動の母親大会

8月25日から26日の2日間の日程で第58回日本母親大会が新潟市で開催されました。

大会には「女性の願いを出発点に話し合い、連帯しよう」と13,000人がつどい、先輩組合員の植木和美さん・坂下祥子さん・田中紀美子さんの3人が滋賀県からの63人とともに参加されました。

参加された植木さんは「開催地の文化と心に触れることができました」と報告と感想を寄せています。

分科会は特別企画の映画「ふみ子の海」と警女(こぜ)の歴史・警女唄」に出

## 格差と貧困のない社会をすべての人が幸せになる社会を!

第1日目は6500人が参加し、34のテーマの分科会やシンポジウムで討論し学びあいました。

第2日目の全体会は、万代太鼓と佐渡おけさでオーブンニング。

つづいてジャーナリストの斉藤貴男さんが「格差と貧困のない社会を」3・1



1以後：私たちはどう生きるのか」と題して記念講演をおこない「大企業のための震災復興や消費税増税、教育の序列化など、格差と貧困を拡大させるアメリカや財界主導の政治の害悪を批判し、すべての人が幸せになる社会をめざそうと」呼びかけました。

つづいて、脱原発の運動、人権を守る運動、解雇撤回の取り組みなどなど、全国各地で繰り広げられている様々な運動、行動などの報告がありました。

午後の文化行事では、6歳の時にチェルノブイリ原発事故で被曝し、故郷を追われ、日本で歌手となったナターシャ・グシーさんの歌とバンドウーラが演奏されました。

母を思い出す曲だと紹介された「コスモスの歌」は涙なしには聴けませんでした。